

# 『霜寒便り』～ チョウゲンボウ救出から学ぶ～

後志教育研修センター  
所長 長谷川 誠

チョウゲンボウという野鳥がいるのをご存じですか。昨年のある夕方、自宅の前で除雪をしていましたら、何やら黒っぽい塊が雪山にいます。動物らしきものであることは、暗闇の中でもわかりました。もう少し雪かきをしていたら、いなくなるだろうと思い、家の裏に回りました。数十分後、戻ってみると、同じ体勢で、まだいるのではありませんか。

ライトを持って近づいてみると、鳩ぐらいの大ききの鳥が、鋭いくちばしだけをこちらに向けて、じっと動かないのです。よく見ると、左の翼がどうもおかしいのに気がきました。はて、困ったと思い、しばらく考えていたのですが、どうもその眼が何かを訴えているように感じました。そして、車庫から籠とタオルを持ってきて、そっと野鳥を入れました。家族のものに知らせると、総合振興局に電話を入れて対応を聞くことになりました。

まもなく、狩猟パトロールの方々が来て、一人の女性専門員が籠の隙間からちらっと見て「ああ、これはチョウゲンボウですね」と、さらに落ちていた場所を示すと「恐らく、電柱か電線にぶつかり、脳しんとうを起こしていると思います」そして、「そのまま動けない場合は、キツネ等に食べられてしまうケースが多いんです」最後には、「事務所で保管して、元気になったら、電線などが無いところに放してあげますね」なんと観察力が鋭く、落下した原因も説明し、そしてその後の対応もきちんと伝えて安堵させてくれる、ああブロってこうなんだなと感心された一場面でした。

私達は教育に関しての専門家です。子どもの日常生活やちょっとした変化に対して、鋭い観察力や洞察力を常に持ち続けているのでしょうか。子どもが迷ったとき、困ったときにその理由や原因を的確に想像し、究明できているのでしょうか。そして、子どもや保護者を安心させられる対応策を立てることができているのでしょうか。その道のプロとして、譲れない大切な資質・能力の一つであると言えます。

さて、8月に開催した後志教育講演会の講演記録ができあがりしました。塩谷隆治先生の「元氣アップ大作戦～ココロのサプリメント～」と題した講演内容をHPに載せてありますので、一度ご覧下さい。

次に、後志教育研修センター調査研究事業報告会を令和2年1月9日（木曜日）13時30分より、センターを会場にして開催致します。学習指導研究委員会では、『授業力の向上と校内研究の活性化に関わる支援の在り方～対話的な学びのある授業づくりの促進を通して～』を研究主題に、三年次研究のまとめの年度となります。また、社会教育研究委員会では『地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働～災害に負けない地域コミュニティの形成～』を研究主題として、4年次研究の1年目となる研究内容を報告致します。

報告者は学習指導研究委員会の亀井孝志委員長、そして、社会教育研究委員会の土門啓二委員長の予定です。冬期休業中でもあり、たくさんの方々の参加を期待致します。後日、各学校にご案内を差し上げますので、申し込み下さい。